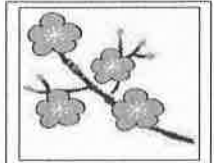




平成30年度  
国見高等学校  
図書館報

H31年3月1日



# 珠玉の言葉が「私」をつくる

教頭 平塚雅英

私は、幼い頃から錦鯉が大好きだった。誕生日のプレゼントにも、よく錦鯉をねだったものである。そして10cm程度の稚魚を何匹か飼育するのだが、何回か環境を変えていくうちに、気付いたことがある。それは、水槽で飼育した場合と池で飼育した場合とでは、その成長のスピードもサイズも全く異なるということだ。池で飼育した錦鯉は、水槽のものと比較して、同じ年月にも関わらず、数倍の大ききさになるのである。



この話を、農家の方と話していたら、野菜も同じだというのである。広い畑で育てた野菜は、狭い畑で育てたもの

より、大きくて立派であると。私たち人間も、広い世界の中で育った方が、大きな人間になるのと言わずもがなであろう。問題は、どのような手法で広い世界を見聞するからである。

「私らしく生きる」とか「私らしい考え方」とかいって表現を耳にすることがある。「私らしさ」って何だろうかと、ふと考えてしまう。生まれたての赤ん坊は、購入した

てのパソコンのようなもので、まだ何も無い真つ新(まことあらた)な存在である。それが、成長とともに様々なソフトをインストールしていき、次第に形になっていくのである。インストールしたソフトの種類と数によって、個性というものが育まれていくのである。

「世の中の真実は古典の中にある。古典は、考える人類が長い時間をかけて見抜いた本物、本物の言葉なのだ。」と、哲学者である池田晶子は語っている。確かにそうだと、頷いてしまう。私たちは、様々なことで友人や先輩に相談をする。そして、受けたアドバイスで問題を解決しようとす



る。しかし、生きた人間のアドバイスより、書物の中に出てくる珠玉の言葉の方が、より正しく、より力強く、進むべき道を示してくれることが多い。

以前、どうしようもなく迷い、悩み、落ち込んでいた時があった。そんな私を、ドイツの詩人ゲーテは、「もはや愛しもせねば迷いもせぬ者は埋葬されるがよい」(人を愛し、迷い、悩むから人間なのだ。)という言葉で救ってくれた。老子は、2600年前の彼方から「生きとし生ける者は皆たをやかである」(生きていける者は全て柔らかない。)という言葉で、背中を押してくれた。

「私」の中には、本当に大勢の人間が生きていることを実感する。話し方、笑い方、考え方……等、日常生活の中

で、何かの折に、ひよいと顔を覗かせる。自分の行動に自信が持てなくなった時には、「大切なことは目に見えないんだよ」とサンテグジュペリが。組織のあり方で行き詰まった時には、「人生の勝負つまるどころ人間関係、好きが嫌いかなんだ」と今東光が語りかけてくれた。活字をとおして、複数の人間と語り合い、珠玉の言葉を頂きながら、「私」というものが育まれてきたように思う。国境を越え、時代を超え、広い世界で泳ぎ回ることがいかに大切か。水槽の中で一生を終えることがなきよう、空っぽのパソコンにならぬよう、まずは一冊、手に取ってみてはどうだろうか。

出典：『14歳からの哲学』『ゲーテ格言集』『老子道徳経』『星の王子様』『極道辻説法』